

北海道苫小牧沖の上位屋気楼について

〒001-0906 札幌市北区新琴似 6-2-5-18
金子和真 気象予報士 3212 号

【苫小牧沖の上位屋気楼について】

2002年5月6日に北海道苫小牧沖にて上位屋気楼を観測し撮影に成功したので紹介します。北海道では各地で屋気楼発生の事例があり、特に小樽市では大鐘学芸員による小樽沖の定期観測が以前から行われていますが、今回の苫小牧沖は、道内太平洋側としては、初の屋気楼発生スポットと言えます。

苫小牧を含む北海道の太平洋沿岸は、春から夏には、高気圧に覆われたとしても、霧が発生することが多く視界が悪い時がほとんどです。特に太平洋やオホーツクに高気圧があるときの、南よりの冷湿な空気は、胆振地方山岳部との地形効果により、室蘭市～苫小牧市の海岸部に濃霧注意報を発します。

屋気楼発生の当日は日本海から高気圧が張り出していて総観的には、北～西よりの乾いた風が吹いており、苫小牧からは、25km先の白老町の海岸や遙か室蘭方向の陸地までも薄く見渡せる程の視界の良さで、この地域としては稀な、晴穏な日でした。屋気楼発生のための気温逆転層は苫小牧や白老の AMeDAS データからわかる範囲で考察すると、日中の海風の侵入が弱まる午後の時間帯に海面近くに形成されたのではないかと仮定しています。

2003年春も気圧配置や風向などから予測して、何度も観測を試みていますが、今年とはとても視界が悪くまだ観測できていません。観測成功の際には、報告したいと思います。

2002年6月には、私も小樽沖の屋気楼を見ることができました。また、報道によるものですが2003年4月に根室と網走で屋気楼が発生しています。これらの発生日の気象条件を調べてみると、高気圧の北海道への張出し方と屋気楼の発生地域との間に何らかの関係があるように思えます。



【北海道の屋気楼発生を予報する】

屋気楼は局地的な気象現象であり、その発生を正確に予報することは非常に難しいと思います。しかしながら屋気楼発生に最低限必要な条件を揃えて、かつ範囲を総観的に広げることで、「発生するかもしれない期待度」を何とか簡便に数値化したいと思い、北海道屋気楼発生の簡易型予測法を考案しています。「期待度」の定義は、4月～8月の日ごとに、北海道沿岸のどこかで屋気楼が発生する期待度とし、感覚的にわかりやすくするためパーセント表示します。地域の特性を、オホーツク沿岸、日本海岸、太平洋岸などおおまかな範囲で補います。「期待度」は、平年の海面温度と最高気温の差から設定する初期値、その日の予想最高気温に基づく気温値、予想気圧配置や天気に基づく補正值、の3要素で算出します。

この方式で今年の4月から5月中旬に50%以上の期待度を示した日が、4月に3回、5月にはGWの2～5日の4回ありました。今後は算出した「期待度」の検証をうまく行って、有効性を検討して行こうと考えています。

【その他屋気楼の関心事など】

インターネットにて最近知った事ですが、中国でも屋気楼発生の事例が多いようです。下位屋気楼や発光現象を混同しているものも多いですが、山東省では、2000年7月に蓬萊、2002年7月には青島でそれぞれ海上で発生しているようです。天津でも地平線上に建造物が浮かぶ屋気楼が2002年7月に発生しています(人民日報より)。また、イギリスで伝わる海の怪物シーサーペントの正体も屋気楼によるものという記事もありました。屋気楼交流の場も世界に広がれば良いと思います。

昨年の全国屋気楼会議も傍聴することができ大変有意義でした。今後も皆様と情報交換しながら屋気楼交流ができれば嬉しいです。よろしくお願いいたします。